

年収150万円

で暮らす法

吉田 清彦

にもかかわらず、連載第
一回目に書いたように私
は、当分の間、さらに年収
を下げてでもサークル活動
により多くの時間を割くこ
うというのである。
どうしてそんなに悠長な
ことが言えるのかという
と、実は私には多少の「蓄
財」があるからである。ど

お金の貯め方教えます

さて、連載も今回が最後

のくらいあるかというこ

ここで、今手元に記録が
残っている過去九年間の年
収をあらためて調べてみる
と、九年間の年収の平均額
は百五十三万円と不思議に
帳じりは合っているが、一
年ごとに見ると、一番多い
年で二百六十万円、一番少
ない年では四十九万円しか
ない。自由業というのは、
経済的にみるといかに不安
定かということが、一目瞭
然である。

私はもともと蓄財などと
いうものには何の興味も持
たずに生きていた。ところ
が、過去二回ほど、どうし
てもまとまったお金が入り
用になって、必要にせまら
れるかたちでお金を貯(た

21

目的もつのが大切

めることになった。
そうすると、お金は、貯
める気になればたまるもの
で、一回目は一年足らずで
百万円、二回目は四年間で

八百万円を貯めることがで
きた。
結論から言つと、お金を
貯めるには、まず、貯める
ための具体的な動機なり目
的を持つことが大切であ
り、次には収入の一部を最
初から無いものと思い込
んで、それを貯めていくとい
う手順が必要である。
具体的に述べよう。最初
と、最初のころは収入の一
半分を貯金用に回し、あと
の半分しかもらわなかった
ことにして、その金額内で
生活するのである。このよ
うにして気がつけば、一年
足らずで百万円がたまって
いて、無事に本を出版する
ことができた。
その気になればお金はた
まることが分かって、今度
は、三十五歳の時、四十に
なったら自分で店を持つと
思い決めて、五年間で一
千万円貯めることにした。



割を強制的に貯金しはじめ
た。ところが、そんなもの
ではとうてい間に合うはず
がないことが分かり、途中
からは収入の半額を自動的
に貯金に回すようにした。
開店指導というのは、指
導日数に長短があるので、
一店あたりの報酬は日数に
よって十万円だったり、二
万円だったりするが、とも
サークル活動に打ち込
みたいという確固とし
た目標がスリムな暮らし
をくじけさせない。
買い取ったミニコミは
売ればお金に戻って
くれる
自分でははかなく消えたが、その
時の蓄財のおかげで、今こ
うしてのんびりとサークル
三昧(さんまい)な生活が
送れているわけである。
(フリーライター)
〓おわり